

洪水ハザード情報について

H27年の水防法改正に基づき、最上川・鮭川・角川で浸水域の公表がありました。
以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

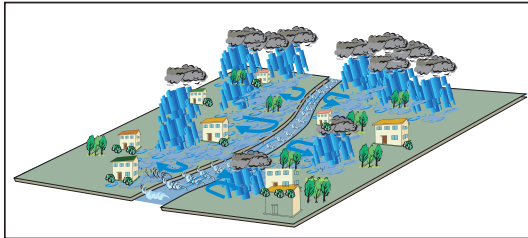
1

氾濫の種類

- 雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊して起こる「外水氾濫」と、街中の排水が間に合わず、排水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

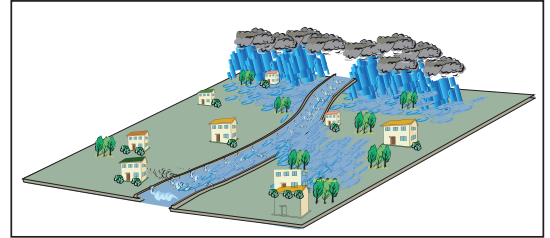
内水氾濫

その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる洪水。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。



外水氾濫

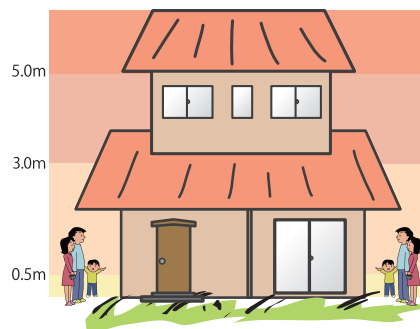
大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し堤防を越える。あるいは堤防が決壊させて川の水が外にあふれておきる洪水。氾濫が起きると一気に水かさが増しますので、最大の注意が必要。



2

説明(外水氾濫)

- この「マップ」で使用しているハザード情報は、3河川が、大雨によって氾濫した場合、洪水が想定される区域とその浸水の深さを示したものです。
- 雨の降り方によっては、想定とは異なる浸水深となったり、地図に表示された浸水区域以外でも浸水することがあります。
- 川が氾濫しない場合でも、低い土地などは浸水被害(床上・床下浸水など)が起こる場合があります。十分注意しましょう。



河川浸水の改正後の目安

5.0m 以上の区域	———
3.0m～5.0m 未満の区域	2 階の軒下まで浸水する程度
0.5～3.0m 未満の区域	1 階の全てが浸水する程度
0～0.5m 未満の区域	大人の膝まで浸水する程度

3

洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

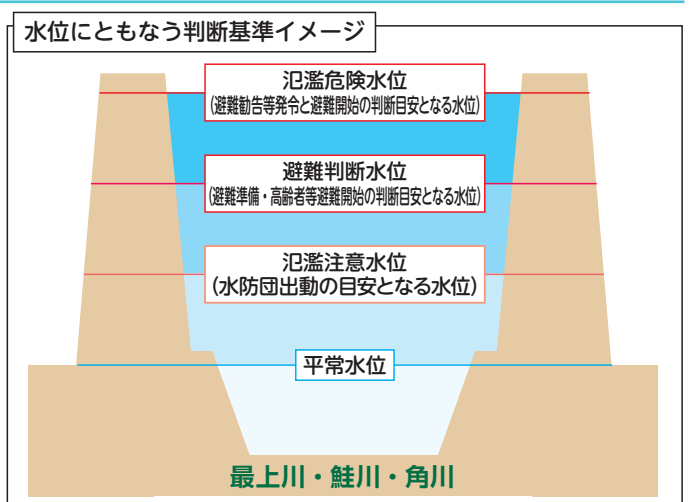
- 洪水によって災害がおこる恐れがある場合、その旨を注意して行う予報。

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害がおこる恐れがある場合、その旨を警告して行う予報。

指定河川洪水予報など

- 最上川・鮭川については、山形地方気象台の予測する降水量をもとに、河川を管理する新庄河川事務所が河川水位の危険度を予測し、共同発表します。
- 角川については、水位周知河川に指定されており、避難判断水位に達したときに山形県が「避難判断水位到達情報」を発表します。

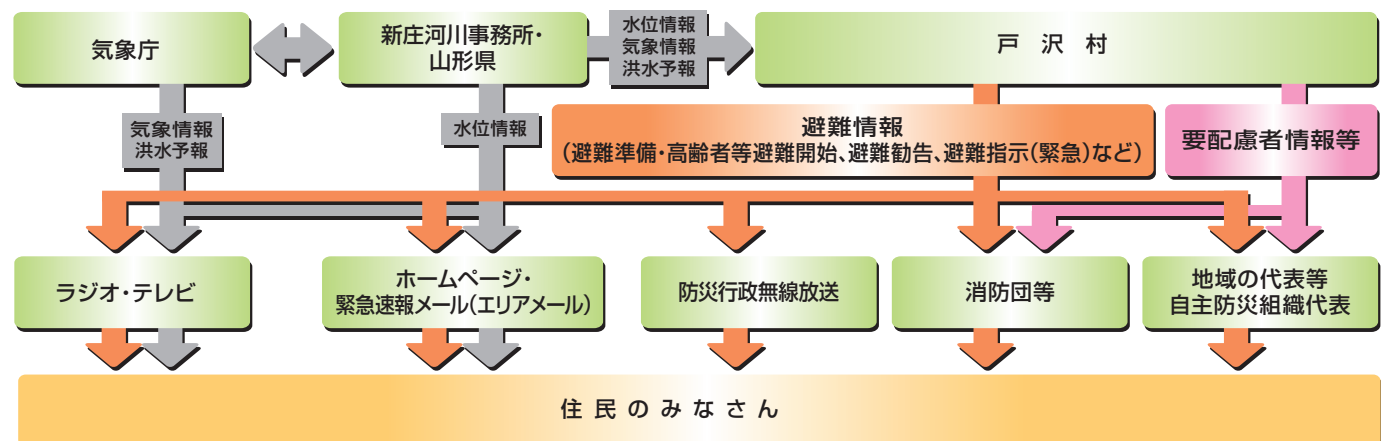


※基準水位や現況水位は、「山形県河川・砂防情報システム」で確認できます。
<http://www.kasen.pref.yamagata.jp/bousai/>

4

洪水情報の伝達ルート(土砂災害情報も同じ)

- 気象の異常に対して、下図の伝達ルートで皆さんへお知らせします。



避難情報の伝達ルートがオレンジ色になります。

情報がなくても、異常気象(雷雨や異常な降雨)を感じたときには、避難の準備が必要です。危険を感じたときには、速やかに避難しましょう。